

坂東PA関連事業に関する整備方針検討委員会

第4回委員会資料

令和2年6月24日

1 前回までの振り返り

<現状の課題>

人口

- ・人口減少、少子高齢化
- ⇒人口減少対策・
交通弱者対策が必要

交通

- ・公共交通網が弱い
- ⇒公共交通ネットワークの
維持・構築が必要

防災

- ・想定を超えた災害の発生
- ⇒災害対策が必要

情報発信・資源の活用

- ・資源を上手くアピール
できていない
- ⇒情報発信が必要



<立地のポテンシャル>

PAとの隣接

地域防災拠点



<整備の方向性>

・圏央道・PAと隣接

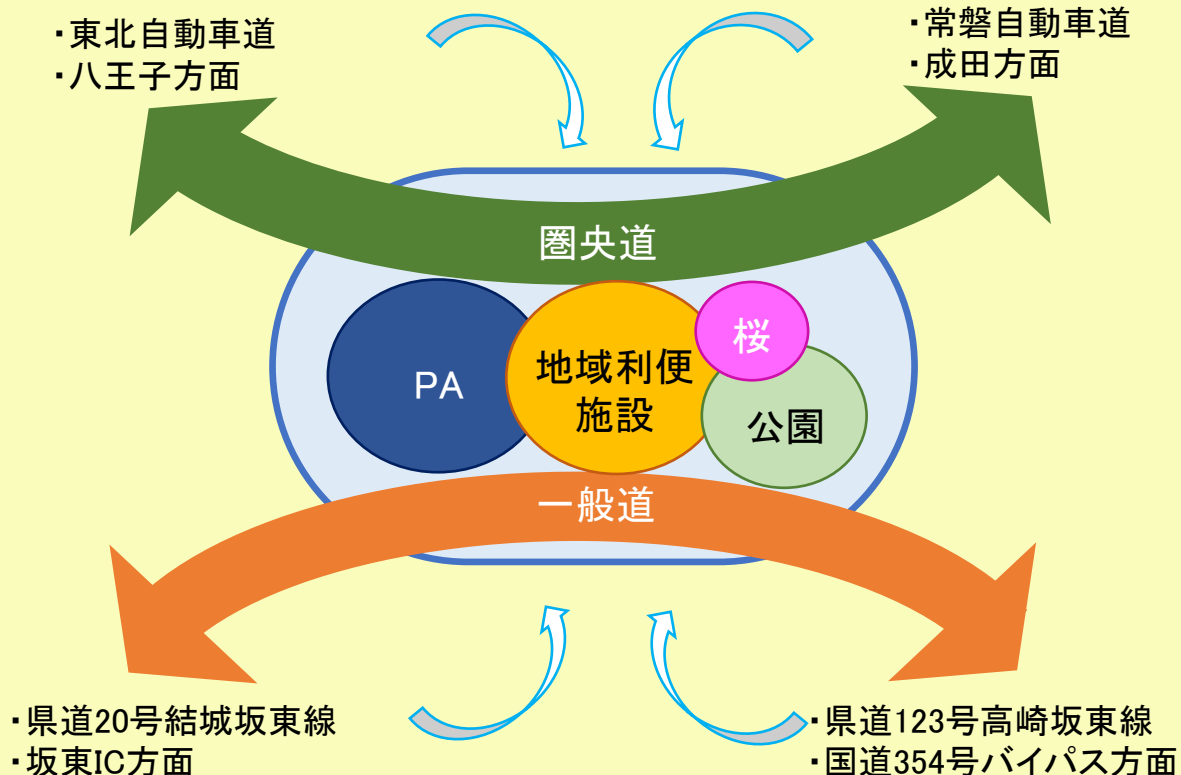
・一般道から利用可能

・桜の里山や公園が整備
可能な広い用地



市内外から人を呼びこむ、
情報発信・防災・休憩
機能を備えた施設。

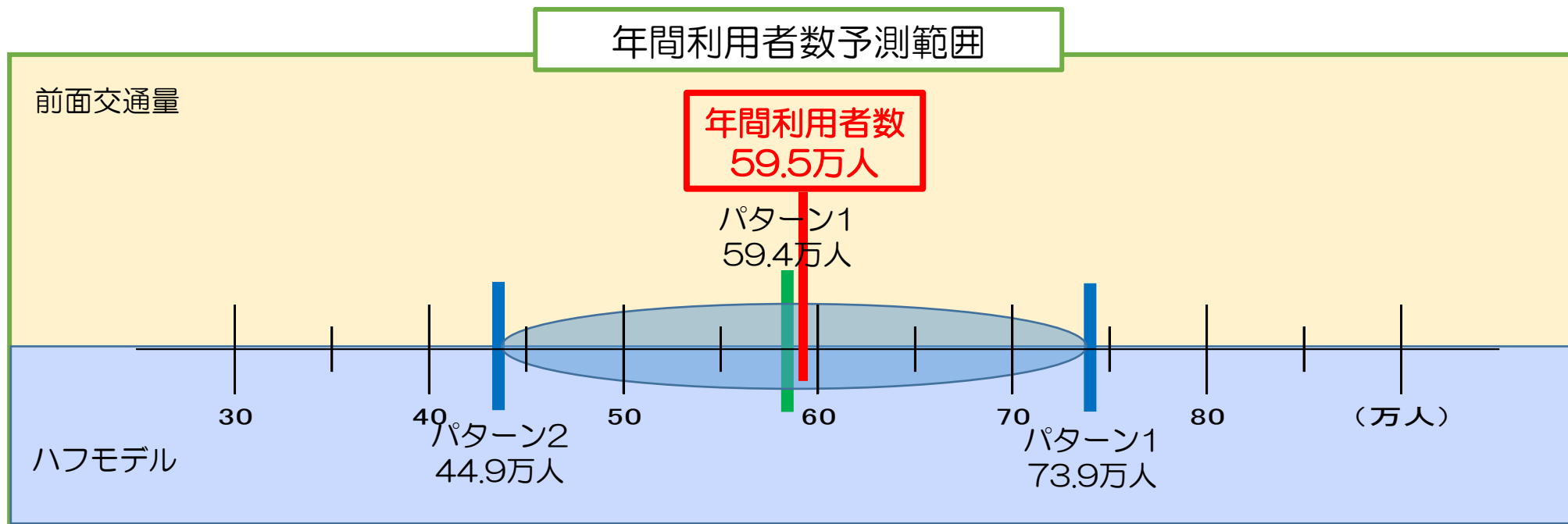
広域からの来訪者（市外・県外・国外）



近距離からの来訪者（地域住民、市民）

1-3 年間利用者数・施設規模の算定

- 施設規模は、当該施設の立地ポテンシャル(市場規模、商圈設定・競合分析)を勘案し、年間利用者数を設定し、それに見合った施設規模の算定を行った。
- 年間利用者数は、以下の3つの算定結果の平均値である**59.5万人**と設定した。



○施設規模の算定

- 算定の結果、各カテゴリーの床面積合計は2,132㎡となった。
- 平面計画を行う段階で、この床面積の1割程度の差が出ることが想定され、**1,900㎡～2,400㎡**となる。

カテゴリー	床面積 (㎡)	主な機能
	案①(59.5万人)	
休憩施設	664	トイレ、休憩スペース、子育て応援施設、キッズコーナー
情報発信施設	休憩スペースに含む	インフォメーション機能、市内事業者紹介、観光案内等
地域連携施設	1,468	物販、飲食、事務所、多目的スペース、屋根のあるフリースペース、コンビニエンスストア
計	2,132	—
施設規模範囲	1,900～2,400	

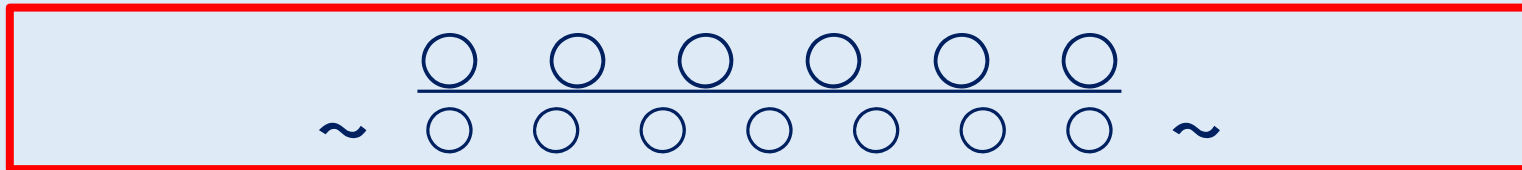
2 整備コンセプトについて

＜整備の方向性＞

市内外から人を呼びこむ、
情報発信・防災・休憩機能を備えた施設整備の実現。



＜整備コンセプト＞



整備方針1 坂東市の魅力を市内外に発信する拠点

整備方針2 災害に対して迅速な対応が可能な拠点

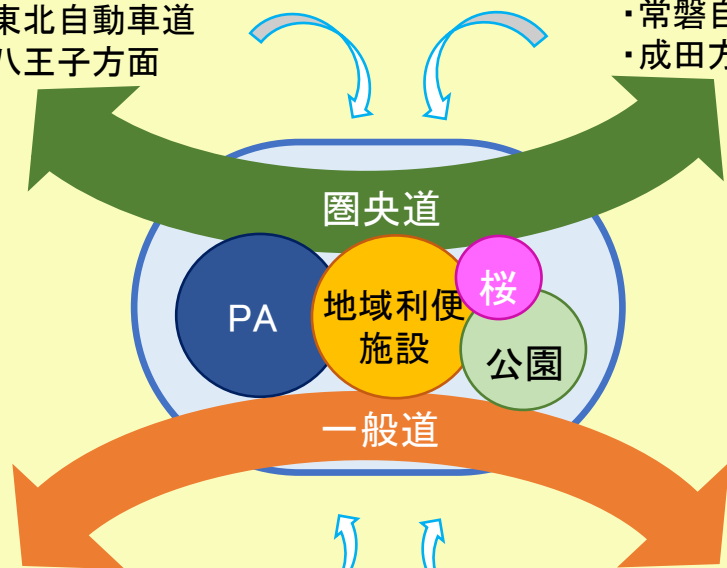
整備方針3 訪れた人に快適と楽しみを与える拠点

整備の方向性

広域からの来訪者（市外・県外・国外）

・東北自動車道
・八王子方面

・常磐自動車道
・成田方面



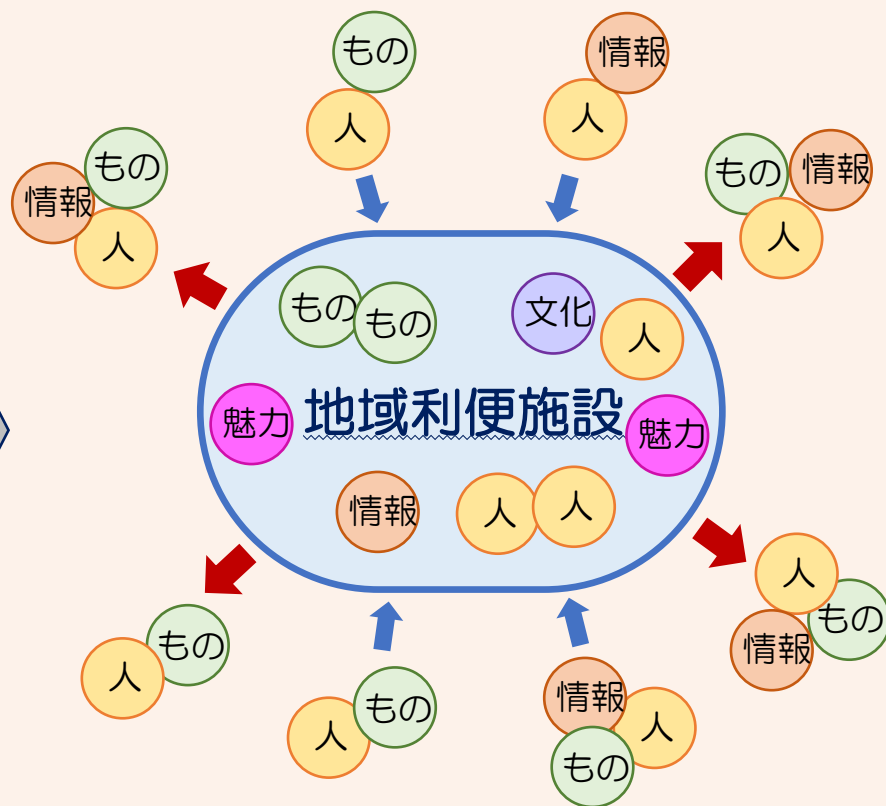
・県道20号結城坂東線
・坂東IC方面

・県道123号高崎坂東線
・国道354号バイパス方面

近距離からの来訪者（地域住民、市民）

市内外から人を呼びこむ、
情報発信・防災・休憩機能を備えた施設。

施設のイメージ



※地域利便施設には、近隣のみならず、広域からも人々が訪れることで、人や物、情報、文化が集積され、魅力が形成されていく。
来訪者が情報（魅力や文化）を外部に発信していくことで、施設の魅力が更に高まっていく。

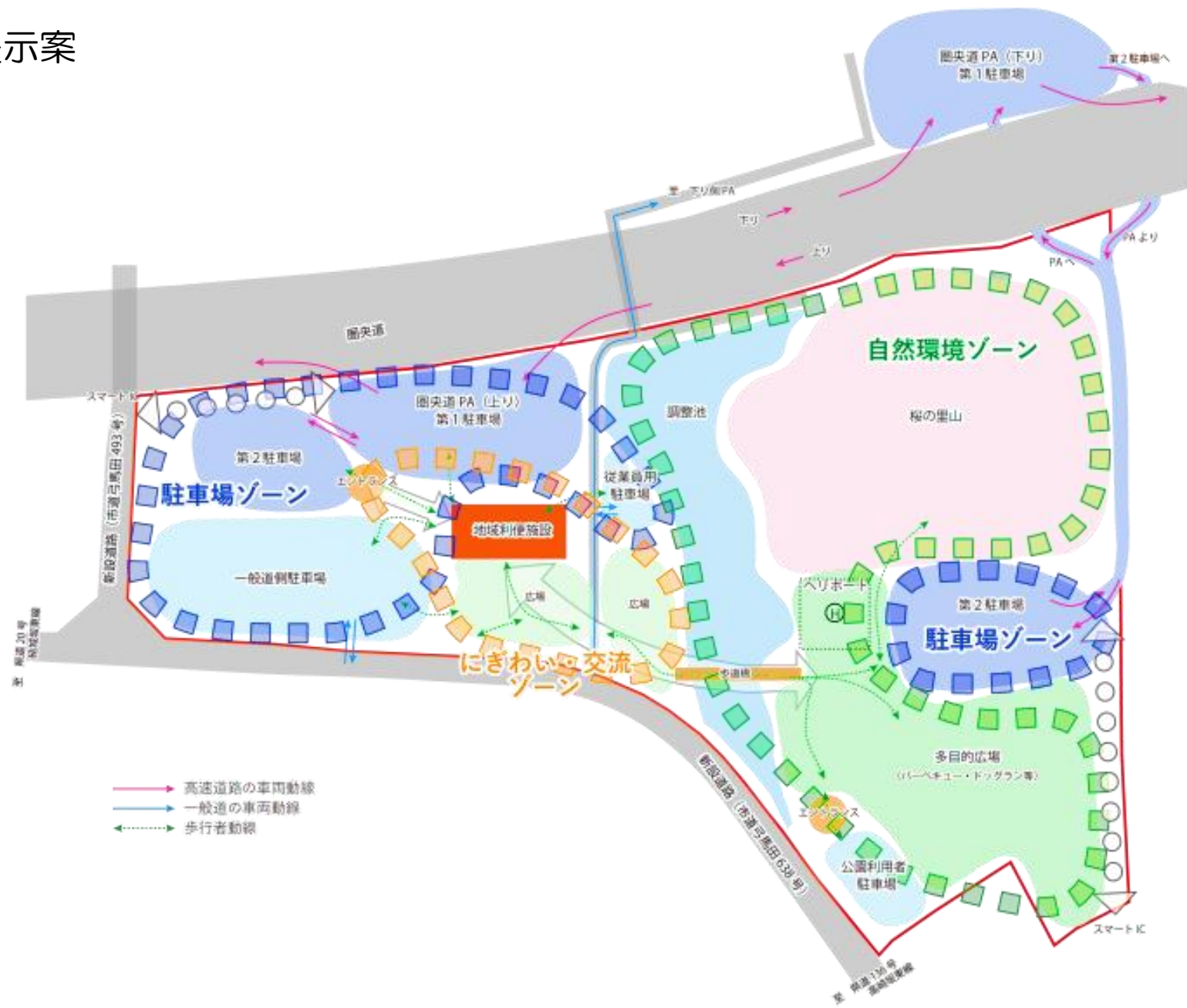
①	<u>関東平野のオアシス BANDO</u> ～ 人・文化・もの・情報・魅力をつなげる場 ～
②	<u>みどりの里 坂東</u> ～ 人が集い、魅力が生まれる地域拠点 ～
③	<u>Hop Step Bando!</u> ～ 全国に坂東ブームを巻き起こせ ～
④	<u>緑いっぱい、笑顔いっぱい、夢いっぱい</u> ～ 緑と笑顔にあふれる豊かな未来を目指して ～
⑤	<u>活気ある暮らしと賑わいの新たな拠点</u> ～ みんなが便利に集える場所 ～
⑥	<u>将門公の郷 ばんどう</u> ～ みんなでつくる賑わいの拠点 ～

3 ゾーニングについて

3-1 ゾーニング（案）について



■前回提示案



作成したゾーニング（案）

案①：敷地中央部のにぎわい・交流ゾーンを大きくとり、ヘリポートを敷地東端に置いた案。

案②：ヘリポートを敷地中央部に配置し、一般道側駐車場を施設の南側まで延伸した案。

案③：中央部連絡路を調整池沿いに整備し、にぎわい・交流ゾーンを施設の東側に大きく整備した案。

地中央部ににぎわい・交流ゾーンを大きくとり、リポートを敷地東端に置いた案。

については別途検討中

この図は、敷地の中央部に「にぎわい・交流ゾーン」を大きく取り、敷地の東端に「リポート」を配置した案を示しています。図には、高速道路の車両動線（赤い矢印）、一般道の車両動線（青い矢印）、歩行者動線（緑い点線）が示されています。また、位置が固定されているものは黒い枠で囲まれています。

主要な施設とゾーン：

- にぎわい・交流ゾーン（中央部）
- 駐車場ゾーン（左側と右側）
- 自然環境ゾーン（右側）
- 多目的広場（バーベキュー・ドッグラン等）
- ヘリポート
- 公園利用者駐車場
- 調整池
- 桜の里山
- 地域利便施設
- 一般道側駐車場
- 第1駐車場（圏央道PA（上り））
- 第2駐車場（圏央道PA（下り））
- 第2駐車場（調整池側）

道路と交通：

- 新設道路（市道弓馬田493号）
- 新設道路（市道弓馬田638号）
- スマートIC
- 至 県道20号（結城坂東線）
- 至 県道136号（高崎坂東線）
- 至 下り側PA
- 至 上り
- 至 PAへ
- 至 PAより
- 至 第2駐車場へ

3-2 ゾーニング（案） ②

案②：ヘリポートを敷地中央部に配置し、一般道側駐車場を施設の南側まで延伸した案。

※スマートICについては別途検討中



3-2 ゾーニング（案） ③

案③：中央部連絡路を調整池沿いに整備し、にぎわい・交流ゾーンを施設の東側に大きく整備した案。

※スマートICについては別途検討中



①	<u>関東平野のオアシス BANDO</u> ～ 人・文化・もの・情報・魅力をつなげる場 ～	地域利便施設がハイウェイオアシスと類似した施設であること、オアシスのように人や文化、物等が集まる場所であるというイメージで設定。また、BANDOをBアンドOと読み替え、Bはベース（拠点）、ブレイク（休憩）、バイ（購入）、Oはオポチュニティ（機会）、オプション（選択肢）等、各要素が集まった施設であるとしている。
②	<u>みどりの里 坂東</u> ～ 人が集い、魅力が生まれる地域拠点 ～	坂東市の特産品である、ネギ、レタス、お茶や、坂東市にあふれる自然からイメージされる緑を主体とし、人が集まることで魅力が生まれていく地域の拠点というイメージで設定。
③	<u>Hop Step Bando!</u> ～ 全国に坂東ブームを巻き起こせ ～	地域利便施設を軸として、坂東市が県内のみならず全国的に飛躍していくイメージで設定。坂東ブームとは認知度の上昇はもちろんのこと、訪れたいと思ってもらう、実際に訪れてもらう目的地となることである。また、ホップ、ステップには、段階的に施設を整備していくイメージも含ませている。
④	<u>緑いっぱい、笑顔いっぱい、夢いっぱい</u> ～ 緑と笑顔にあふれる豊かな未来を目指して ～	坂東市にあふれる自然や農作物にふれることで、人々が笑顔になり、豊かな未来へ向かっていくという夢を持てるような場所を整備するというイメージで設定。
⑤	<u>活気ある暮らしと賑わいの新たな拠点</u> ～ みんなが便利に集える場所 ～	人々が集まり、賑わいが生まれることで、市民の暮らしに活気生まれ、暮らしの利便性向上が図れる場所として地域利便施設を整備するというイメージで設定。
⑥	<u>将門公の郷 ばんどう</u> ～ みんなでつくる賑わいの拠点 ～	郷土の英雄である平将門公が、坂東市内に本陣を構えたという史実に基づき、将門公の郷というイメージで設定。施設を市民の皆様や道路利用者の皆様にご利用いただき、みんなで賑わいをつくっていく拠点とする。

ゾーニング（案） 各案の詳細



前提条件：調整池、桜の里山、上下線PAの位置は固定

案①



敷地中央部のにぎわい・交流ゾーンを大きくとり、ヘリポートを敷地東端に置いた案。

○特徴

- ・施設周囲に広くスペースを配置
- ・施設を分割して配置する等フレキシブルな施設整備が可能
- ・広場を利用したイベントの実施等、施設を活用した賑わいの創出が可能

案②



ヘリポートを敷地中央部に配置し、一般道側駐車場を施設の南側まで延伸した案。

○特徴

- ・ヘリポートを施設近くに配置
- ・防災拠点としての施設の利便性が向上
- ・一般道側駐車場を施設近くに配置
- ・緑地を一般道側駐車場として増設可能

案③



中央部連絡路を調整池沿いに整備し、にぎわい・交流ゾーンを施設の東側に大きく整備した案。

○特徴

- ・効率的な土地利用が可能
（にぎわい交流ゾーンが道路で分断されないため）
- ・一般道側駐車場を施設近くに配置
- ・緑地を一般道側駐車場として増設可能

資料 3

至 境古河IC

坂東IC

地域利便施設

市道弓馬田638号線

坂東市

至 岸線IC

位置図及び航空写真



航空写真

